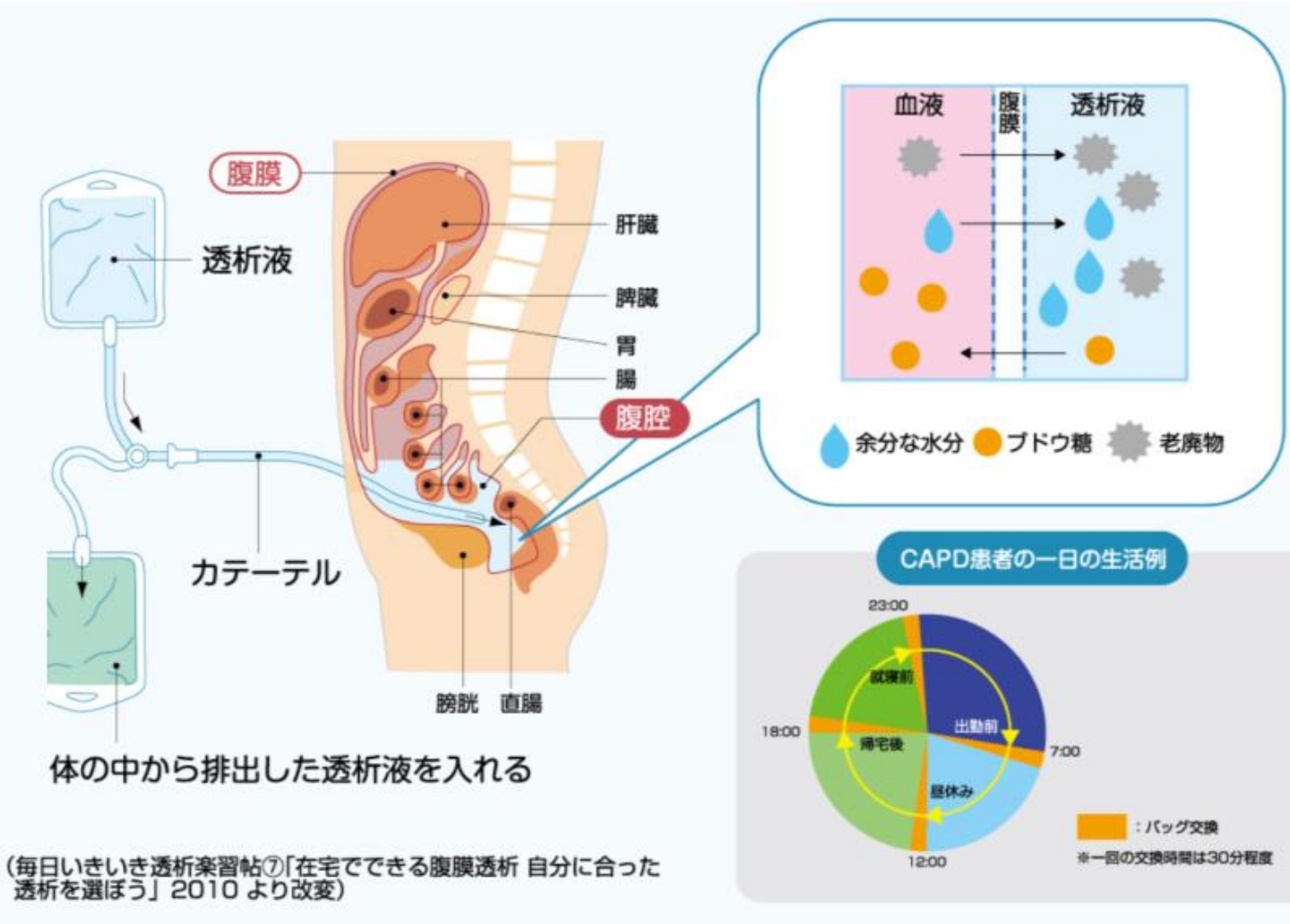
腹膜透析

腹膜透析液を注排液するための医療用カテーテルを腹腔内に留置します。
持続して腹腔内に透析液を貯留し１日３～４回液交換を行うCAPD、夜間のみ腹腔内に透析液を貯留し、機械で自動交換を行うAPDなどがあります。



（毎日いきいき透析楽習帖⑦「在宅でできる腹膜透析 自分に合った透析を選ぼう」2010 より改変）

利点としては病院への通院回数が月１～２回と少ないこと、また就寝中の治療が可能であり、ライフスタイルに合わせた治療が可能であること、透析導入後長期間尿が出ることなどがあげられます。
欠点としてはカテーテルにより体外と腹膜が直接つながっているため感染症の危険や、蛋白喪失があり栄養状態の悪化が起こることがあります。